様式1

令和４年度　学校評価表

学校教育目標	可能性への挑戦 ～これからの社会に必要とされる資質・能力の育成を目指して～

a　ミッション	地域に信頼され，地域に誇れる学校をつくる	a　ビジョン	○生徒が安心して学べる学校　　○潤いと活気に満ちた学校 ○生徒，保護者，教職員が誇りに思い，地域から信頼される学校

尾道市立向島中学校

評価計画						自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
	志高く挑戦する生徒の育成 多様性を尊重し、かかわり合える生徒の育成 失敗を恐れぬ元気さをもつ生徒の育成 新しい発見から学びを深められる生徒の育成 ↓ 主体性・表現力	豊かな人間性の育成 スクールプライドの育成 小中連携の推進	○小中連携を生かした生徒指導の充実 ★小中連携を充実し、自己指導力の育成 ↓ 生活リズムの確立 自己肯定感の向上 不登校生徒の減少	①就寝時間が同じくらいであると答える生徒の割合 ②自分にはよいところがあるといえる生徒の割合 ③学校が楽しいと答える生徒の割合	①８０％ ②８０％ ③８０％	① 85.8% ② 67.3% ③ 76.9%	①91.2% ②68.1% ③78.8%	① 114.0 ② 85.1 ③ 98.5	B	①就寝時間が同じくらいの生徒は88.5%(3年)、90.1%(2年)、95.6%(1年)である。全体には%が上昇したが、朝食を毎日とる生徒が75.1%、睡眠時間が4時間程の生徒やスマホ、ゲーム機、等の長時間使用をしている生徒もいる。全体への指導と共に個別の生徒への取組も行っていく必要がある。 ②自分に良いところがあると答えた生徒は70.9%(3年)、69.7%(2年)、63.4%(1年)である。全体では%が少し上昇したが、2年生で下降した。SSTを実施したり、生徒会の活動と連携して、自分がしてもらってうれしかったことを掲示したりしている。行事や活動の中で生徒一人一人が活躍できる場を作り、継続して取組を行っていく。 ③学校が楽しいと答える生徒78.5%(3年)、82.9%(2年)、74.6%(1年)である。全体では%が少し上昇したが、1･3年生で下降した。2学期になり、人間関係でトラブルになることが多かった。仲間作り･居場所作りを意識した取組を推進する。	○			・スマートフォンやゲーム等の長時間使用、特に夜間帯の使用は睡眠不足や自律神経への影響を及ぼし、 集中力、自己肯定感の低下につながると考える。規則正しく充実した 生活を送るためには、スマホゲーム等に依存している生徒を把握するとともに、生徒が自分自身の状況をまず知る事が大事だと思う。スマートフォン等の正しい使用について継続的に指導していく必要である。 今後も啓発して頂きたい。 ・基本的生活習慣は俄かに身につくものではないと思います。小学校等と連携を十分とり、個別でも取り組んでいただきたいと思う。 ・不登校の生徒の個別的なアセスメント、フォローが一層重要だと思う。 ・学校が楽しい、 自分に良いところがあると言える生徒が増えることで豊かな人間力の育成につながると考える。引き続きその環境づくりをお願いしたい。 ・中学校区で授業参観や様々な研修・連携を行い課題についての共通認識を持ったり、小学校から中学校への円滑な移行につなげようとされていることがよく分かった。これが生徒一人ひとりの自己肯定感につながってほしい。	○生活リズムの向上は生徒会など生徒が主体となる取組を企画する。 ○生活習慣等（生活リズム　スマホの活用等）については，保健だよりなどを通じて保護者啓発を行う。 ○行事で生徒が活躍できる場を増やすと共に、文化系の部活動の生徒が活躍できる場を増やす。歌島祭以外でも展示等を行う機会を作る。 ○縦割り等の異学年を生かした学習方法についての交流や，学年の取組の紹介の場の設定から，生徒個々の自己肯定感を高め，学校での居場所づくりにつなげる。一部の生徒だけでなく、全員で取り組める仕組みをつくっていく。 ○体験活動等を通して、自分の良さや仲間の良さに気づかせ、班活動や学年、異年齢などで展開できる活動を生徒会や委員会と連携しながら取り組む。
		自ら学ぶ力の育成 主体性・表現力	○生徒指導の三機能を生かした授業改善 ★主体性・表現力の育成 「問い」の工夫 ↓ 表現の工夫 ↓ 評価（見とり）の工夫	①タブレットや大型提示装置等を活用し、授業において「問い」や「表現」を工夫していると答える教職員の割合 ②授業において自分の考えを相手に分かりやすく伝えるよう工夫している生徒の割合 ③各種学力テストで全国平均を上回る	① 教師90% ②８０％ ③７０％	①８０％ ②７０％ ③４２％	①100% ②79.6% ③42%	① 111.1 ② 99.5 ③ 60.0	B	①タブレットや大型提示装置を活用していると答えた教員の割合は100%、授業において「問い」や「表現」を工夫していると答えた教職員の割合は90.9%である。今後も生徒の思考の深まりやねらいの達成にせまる活用の充実が求められる。 ②授業において自分の考えを相手に分かりやすく伝えるよう工夫していると答えた生徒の割合は、79.6%である。少し改善が見られたので、授業において発表や表現を繰り返し、今後もカをつけていきたい。 ③各種学力テストで全国平均を上回る割合 ５／１２教科 １年（平均以上　国　数） （平均以下　社　理） ２年（平均以下　国　社　数　理　英） ３年（平均以上　国　数　理）	○			・生徒の学力向上に繋げる努力をされていることは分か りますが、各種学力テストの達成度が 低いことが気になります。学力テストの結果が一部平均 を下回っているようです。 課題等を整理して、学力向上に努めて いただければと思います。ICTの 活用や表現の工夫等が実施 されておられるようなので、今後も 成績向上に努めていただきたい。 ・小さなことでも自信を持って行動できることが増えると活躍できる 場が増えると思います。引き続き 取り組んでいただきたいと思います。 自分の考えを相手に分かりやすく伝える工夫をしている生徒の 達成値が改善されていますので 引き続き力をつけていただきたい 。 ・いくつかの授業で生徒がタブレットを使って自分の考えをまとめたり、相手に伝えようとしたり、またその場にいない生徒も授業に参加する場面を参観しました。様々な取り組みを通して、自ら学ぼうとする。自ら伝 えようとする意欲につながると良いと感じた。	○本質的な「問い」や単元を通しての「問い」を工夫し、生徒に「表現」させることを継続して取り組む。 ○学力の定着に課題がある生徒について、標準学力テストの結果や生活アンケートの結果等も関連付けて各学年や教科で分析する。 ○各教科でｅライブラリ等を使った効果的なＩＣＴの活用を推進し、学力の定着に課題のある生徒への個別の学び直しやそのきっかけとなる働きかけを計画的、組織的に行う。 ○効果のあった学習方法を生徒間で交流させるなど委員会活動と連動しながら、自らの学び方を認識したり、改善したりする取組を展開する。 ○地元企業など外部とのつながりをつくり、生徒達の体験を充実させる。 ○授業改善に向け、校内で気軽に相談できる取組を研究部等で企画する。 ○総合的な学習の時間では小中連携により９年間を見通して取り組みを進めていきたい。
		組織的で自律した教職員	○働き方改革による組織的な運営と人材育成 ★教育の質を高める働き方改革の推進 ↓ 子どもと向き合う時間の確保	①生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教師の割合 ②タイムマネジメント、効率的な仕事の進捗に努力していると答える教師の割合 ③主体的に学んだことを講師として還元することのできる教師の割合	①90% ②９０％ ③100%	① 72.2% ②79.0% ③ 85.7%	①７３．７％ ②９５．０％ ③100%	① 80.2 ② 105.5 ③ １００	B	①生徒と向きあう時間が確保されていると感じる教師の割合　７３．７％ ９月時点72.2%より向上したが、引き続き、向きあう時間の確保に努める必要がある。 ②タイムマネジメント、効率的な仕事の進捗に努力していると答える教師の割合は95.0%であった。見通しを持った早めの取組や情報共有により引き続き改善に努める必要がある。 ③主体的に学んだことを講師として還元することのできる教師の割合 １００％　２１／２１人 校内研修等において教員が自己表現する場を設定し、取り組み学び合いを引き続き推進する。	○			・先生方も自分の時間を大切にし、心身ともに健康でしっかりと生徒と向き合って頂けたらと思います。ライフワークバランスはとても重要だと思うので、今後も対応を継続して頂きたい。先生方の校内での自己表現100%はすごいと思う。このような校内研修はとて も良いと思う。 ・コロナ禍において生徒と向き会う時間の確保は困難だったと思うが、引き続き取り組みをお願いしたい。 ・生徒と向きあう時間の確保・ 見通しを持った早めの取り組み、先生方の学び合い等、達成値が 上昇している事は嬉しく思う。 ・先生方が心身共に健康で、情熱を持って仕事に生徒たちに取り組めるよう改革してほしい。	○目指す生徒像、教師像を年度初めに共有し、学校目標を達成するための重点取組と業績評価の関連を図る。 ○研修の還元、教師の相互の学びあいを継続する。 ○必要な業務・分担を見直し、これまでより多くなってきたＩＣＴ等の業務についても分担を増やしていくなど検討を行っていく。 ○分掌部会の開催方法の工夫 ○定時退校日の徹底 ○仕事が偏らないよう、仕事内容の精査・整理、チェック作業もローテーションを組むなどの工夫を行う。 ○業務の進め方について、担当が変わってもスムーズに引き継げるよう、業務の流れをつくる。 ○行事が終わったら、実施要項に改善点を次年度のために朱書して保存しておく。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。